

Freiburg



公共交通を中心に描かれた街のかたち

ドイツの南西端、フランス・スイス国境に近い場所にフライブルクはあります。ここが、注目されているのは、ソーラーエネルギーなどのエネルギー政策や公共交通機関を中心とした都市デザイン、緑の保護条例など、先進の環境対策と快適性が評価されていること。1992年には「自然と環境の保全に貢献した連邦都市」の名称が与えられたフライブルクを3回にわたってご紹介します。



緑化軌道を走るヴォーバン地区のトラム



緑の帯の一つ。石窯のある公園

公共交通と自転車、徒歩の街

15世紀に創立されたフライブルク大学や各種研究機関のあるフライブルクは、緑の多い学術研究都市として名を馳せ、旧市街には中世の街並みが残されていますが、この多くは第二次大戦後に再建されたもの。戦後復興の際に、昔の街並みを再興することが選択され、細い石畳の道も再現されました。ドイツでも自動車の急増に伴う問題が起きましたが、フライブルク市は旧市街地への自動車進入を抑制するために、'89年には、旧市街の周囲に4車線の環状道路を整備して自動車を迂回させるとともに、トラム(市電)と自転車利用を促す総合交通コンセプトを策定しました。

ヴォーバン地区に見る街づくり

第二次大戦時ナチスの駐留地であったヴォーバン地区は、'92年にフランスからドイツ連邦に返還されました。当時住宅難だったフライブルク市はここに新興住宅地区を計画しました。'94年にはヨーロッパ全体で設計競技を行い、採択されたプランにフライブルク市が、自動車に依存しない街や豊かな自然環境を維持するための施策を加え、Bプラン(地域詳細計画)を都市計画局が作成(図1)。これをもとに、住民参画のグループなどとの話し合いが何度も繰り返され、市民の合意によって、児童公園の配置や道の幅という、詳細な部分までが決定されました。市が行った開発前の調査では、若者



ペットも同乗できるバス



旧市街では自動車の乗り入れが規制されている

トラムを中心とした街

の入居が多いという結果だったので、幼稚園、保育所、小学校などの社会インフラを整備し、自動車事故から子供を守る街づくりがなされ、現在では多くの人が入居を希望しています。

地区を縦断する中央通りには軍用地時代から街路樹があり、この場所に公共交通を通して住民が便利に利用でき、自動車が住宅エリアに入ることがないように計画。ここでは各住戸にガレージが認められておらず、共

同駐車場が街区の隅2カ所に設けられています。自動車より公共交通や自転車を利用する方が便利ないように仕組まれているのです。さらに、中央通りとつながる生活道路はU型となっていて、通り抜けることができせん。この道は『子供が遊ぶ道』と名付けられ、自動車の時速は5〜7km制限の『忍び足テンポ』となっています。ここでは子供と大人、自動車が同権なのです。フライブルクにおけるエネルギーや緑化、交通、ゴミ問題などへの取り組みを、各国の自治体・企業が視察に訪れ、街づくりに生かそうとしています。



車が通り抜けない『子供が遊ぶ道』



クルマが来ないので地面にらくがき



歩行者・自転車専用道路

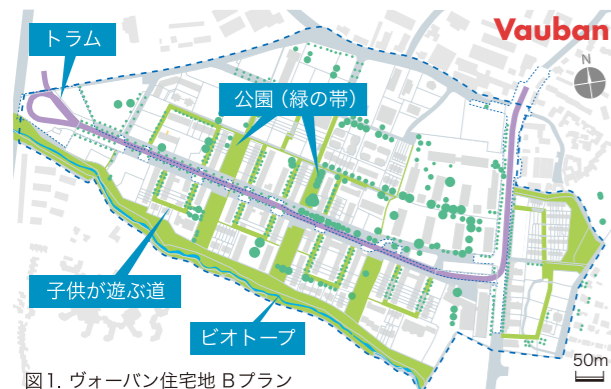


図1. ヴォーバン住宅地 Bプラン



街区の隅にあるソーラーガレージ



中央駅に設けられた約1,000台の自転車収容できる「モビレ」



入居者の組合が建設したコーポラティブハウス



対面する建物の間は20mとられている